



1 3 色鮮やかな晴れ着に身を包んだ出席者たち  
 2 「誓いの言葉」を述べる代表者  
 4 出席者は感染対策の一つとして入場券に連絡先を記入  
 5 旧友との再会を喜び合う様子は会場の至る所で見られた  
 6 着付けボランティアの皆さんのお直し  
 8 入場者が分散するよう町域別に受け付け  
 9 思いの品々を手にとる過去の自分と対面



令和4年成人式  
 誰かの支えとなり  
 助けられる社会人に  
 阿部 喜樹さん  
 津山町入沢

中学校を卒業してまだ5年という短い時間ではありますが、それぞれ道が違いますが、同級生たちの過ごしてきた時間を肌で感じることで、うれしく思います。

今日という日を迎える中で、この20年間、たくさんの人たちに支えられてきました。部活動で支えてくれた仲間や、心地よい時間を共有できる友人とその家族。私の良いところだけではなく、短所も含めて、全てを受け止めてくれ、愛してくれた家族のおかげでここまで成長することができました。

私は登米市の職員として市民の皆さんのために仕事に取り組んでいます。より丁寧で分かりやすい説明を心掛けながら、一日でも早くもっと地域に貢献できる職員になることを目標に励んでいます。先輩方に少しでも追いつけるように努力していきたいと思っています。

最後になりますが、今まで自分を支えてくれた家族、友人、先生方、地域のみなさんに感謝し、私も誰かの支えとなり助けたいという努力を社会人になれるよう努力することを誓います。

## 成人の主張

成人式出席者を代表し2人の「成人の主張」(要約)を紹介します

令和3年成人式  
 向上心を忘れず行動  
 感謝を伝えたい  
 久須田 桃子さん  
 米山町貝待井

これまでの20年間、常に周りには私を支えてくれる人がいました。部活動でも、もに頑張ってくれた仲間たち、いつも私を笑わせてくれた友人たち、親身に相談に乗ってくれた先生など、お世話になった人が数え切れないほどいます。

今は、大学で英語や異文化、「コミュニケーション」を学んでいます。外国人の先生の授業や留学生との交流を通して、考え方の違いを受け入れることで相手を理解できることに気がきました。また、幼い頃からの夢

であったテーマパークでのアルバイトにも従事しており、そこでもさまざまな年代、性別、国籍、思想の人と多く接します。動く中で、自分にとっての「当たり前」が他の人にとってはそうではない可能性があることに気がきました。「多様性」という言葉が大切にされるようになってきた今、周囲の人とお互いに尊重し合い、生活したいです。

今後、向上心を忘れず行動し、成長した姿を見せることで、感謝の気持ちを伝えていきます。

# 【特集】令和3年 登米市成人式 令和4年 登米市成人式

～感謝の気持ちを胸に～

暮らしの中にさまざまな制限がある中で節目を迎えた新成人。不安と希望を胸に大人の世界に飛び込みました。

20歳の門出を祝うかのように広がった青空の下、凜とした空気に包まれ、延期していた「令和3年登米市成人式」が1月8日、「令和4年登米市成人式」が9日、登米総合体育館で開かれました。新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、両日も午前と午後2部制とし、家族の入場も制限を設けました。令和3年成人式対象者は811人で令和4年対象者は804人でした。

会場は、スーツやはかま、色鮮やかな晴れ着に身を包んだ出席者たちで華やかな雰囲気。旧友との再会を喜び合い、近況を報告したり、記念写真を撮影したりする姿が至る所で見られました。

式典では熊谷盛廣市長が「本当に自分のやりたいことは何かを見つければ、それに向かって進んでください。これからどう生きるのかを自分自身に問いかけ、今日の決意をしっかりと胸に刻み、勇気を持って大人の世界へ飛び込んでください」と式辞を述べました。

各式典では新成人の代表が「この地域がさらに魅力のあるまちになるよう貢献したい。成人として新たなステージへの門出を迎えた今、大人としての自覚と責任を持ち、夢や目標に向かってより一層努力していくことを誓います」などと誓いの言葉を述べ、決意を新たにしました。